

海南高校美里分校



平成29年度

マンスリータイムズ

9月号

県高校総合文化祭郷土芸能部門

太鼓部 優勝 全国大会出場へ

8月23日、かつらぎ総合文化会館（あじさいホール）において、和歌山県高校総合文化祭郷土芸能部門が開催されました。太鼓部のメンバーは、第1部で「森のカタルシス」と「長峰」、第2部で「轟」と「朝焼け」を演奏しました。結果は見事“優勝”。来年の8月に長野県で開催される全国総合文化祭の出場権を得ることができました。

以下は、出場生徒のコメントです。

「二年間準優勝だったので、『今年こそは勝ちたい。』と思い、夏休みは、必死に練習しました。しかし、大会前日になってもメンバーのリズムがそろわず不安なまま当日を迎えました。大会では、練習以上にみんなのリズムがそろい、3年ぶりに優勝することができました。1、2年生には来年夏に行われる全国大会に向けて練習してもらいたいと思います。そして僕たち3年生は、引退までに僕たちがたたいているパートを下級生に伝授したいと思います。」（3年生）

「3年生になって、ついに県大会を優勝することができました。ここまで育ててくださった太鼓の先生や学校の先生方にはとても感謝しています。私は、来年の全国大会に出ることはできませんが、後輩たちが全国大会で良い演奏ができるように支えて頑張りたいと思います。県大会で優勝できて、本当に良かったです。」（3年生）

「このメンバーで優勝できて良かった。1年生が入部し、太鼓について一から教え、大会が近くなっても全く合わずこれで大丈夫なのかと不安だった。大会当日、他校の演奏が終わり自分たちの番へ。ミスもあったが、自分たちの力を出し切った演奏が終わった。そして、結果発表・・・『第1位 海南高校美里分校。』本当にうれしかった。来年の全国大会は、1、2年生にさらに頑張ってもらいたいです。」（3年生）

「このメンバーで、半年やってきてとても良かったと思います。どんなつらい練習も、この仲間とやってきて乗り越えられました。県大会に出させてもらい、とても光栄に思います。和歌山代表ということ誇りに思い、来年全国大会で頑張りたいと思います。」（2年生）

消費者教育講座

9月8日、和歌山県消費生活センターの真砂美香先生をお迎えし、全学年の生徒を対象として「消費者教育講座」を行いました。講座では、「身近な契約インターネットについて考えよう!」として、消費生活における「契約」について学習した後、インターネットでのトラブルについて教えていただきました。インターネットのトラブルでは「ワンクリック詐欺」「インターネットショッピング」「オンラインゲーム」「SNSでのトラブル」の4点について、わかりやすく教えていただきました。現在は、インターネットを活用するのが当たり前となってきています。便利な反面、危険も潜むインターネットについて、今回の講座は大変勉強になったと思います。



10月の主な行事予定

- 2日(月) 衣替え
- 6日(金)～12日(木) 2学期中間考査
- 13日(金) みさと天文台現地学習(3年)
- 20日(金) 高齢者交流ゲートゴルフ大会
- 26日(木) AM 交通安全実技講習(海南)
PM 津波防災研修(湯浅)

オータムフェスティバル

美里分校 文化祭

11月11日(土)開催



心一つに迫力の演奏を

海南高校美里分校が全国へ



わかやま wakayama

新報

SHIMPO

9月2日
土曜日

2017年(平成29年) 第21393号
(日曜・祝日・休日翌日休刊)

全国に向けて成長を期す部員たち

記 美 平
 県立海南高校美里分校(紀伊郡町毛原中、河本好史校長)の太鼓部が、県高校総合文化祭(8月28日、かつらぎ総合文化会館)で優勝し、来年8月に長野県で開催される第42回全国高校総合文化祭への出場が決まった。企画出場は、これ2年ぶりとなる。

同校が前身の大成。現在の部員は13名。高校時代に創設された太鼓部は、このころから太鼓を始めた21年目を迎える。昔、初心者が多く、段は夏休みを中心に、開発委員会には部長、老人ホームや地域の他、紀北地区高校夏祭りなどで和太鼓(かづの太鼓)の演奏を披露していた。かわ支線学校(橋本



市高野口町)が出演。制限時間8分で、演奏曲の構成は各校で決められる。同部は卒業生の司原規生さんが作曲した「森のカタルシス」と「長峰」、同部の演奏指導をしている山本悠斗さん作曲の「轟」朝焼け」の部員が好きな4曲を選び、前半と後半に分けてメドレーで演奏した。

大太鼓と小太鼓を中心に、長瀬太鼓宮、太鼓、や竹、かね、宮まつ楽器で構成、

部長の西澤和久君(3年)によると、練習では何度もたいても合わなかったり、相手の太鼓の音が聞けずタイミングがずれたり、前が追いつけなかったり、後半の演奏を練習しては直直し、音合わせをしていった。緊張しながら迎え入れたのは、大成高君は振り返る。しかし、審査員からは「まるでまるでいい」「バスを保持している」と厳しく

てきた経験を受け、四拍子は「大成全体はまたバラバラ、企画大会に向けて、迫力ある太鼓を披露する」と、指導員は「10年ほど練習を返してこその、

先輩たちの悔しい気持ちを聞いて、思いが詰ったのは、企画では太鼓を持って入場を希望していた。これは、1年ほど前、先輩たちが「これは、1年ほど前、先輩たちが、